



常楽寺の楼門へと続く石積みの階段。転ばないようにゆっくりと



㊦常楽寺の境内にある大きな鐘。鳴らすと山中に響き渡る
㊦かつては300人を超える僧が仏教を学んだ常楽寺



**お寺も神社も昔話も
文化・歴史も楽しめる**

飯田山のもう一つの魅力が「文化・歴史探訪」です。麓から山頂まで1丁（約109㍍）ごとにたたずむ14体の「一丁地藏」が登山者の安全を見守り、そのお地藏様を巡るのも楽しみの一つ。

8合目には、平安末期に創建された「常楽寺」があり、誰でも立ち寄れるそのお寺では、歴史ある文化財や季節により色を変える境内を愛でることが出来ます。

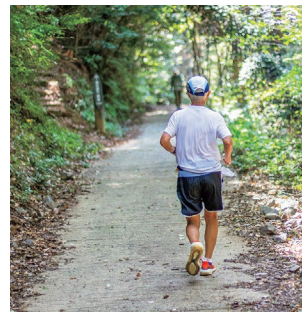
さらに山頂近くの「白山神社」に足を延ばせば、そのそばには「飯田山」の名前の由来に関わるとされる池が。昔々、神様が注いだ水がどちらに流れるかの背比べで、金峰山に負けた飯田山が、「もう背比べするなんて『言い出さん！』」と言ったことが由来とか。池にはその神水が流れていると伝えられています。

端正な山容から、「益城富士」とも称される飯田山は、幕末の思想家・横井小楠もその四季の移ろいを好んだと伝えられています。

歴史的な口マンにも触れてみると、この山の魅力がさらに深まるはずです。



㊦山頂近くにしたたずむ白山神社
㊦地元の人々が置いたベンチがある休憩スポット。ここからは益城町が一望できる



**ちよつとしたお散歩も
しっかりハイキングも
大人でも、子どもでも
みんなで遊べる飯田山**



と整備されているので、子ども連れでも安心して挑戦できます。

その登りやすさを物語るように、すれ違うのは親子ハイキングを楽しむ人から、ジョギングをする人、トレー

ニングウェアで気軽に登頂する学生まで実にさまざま！

そして最大の魅力は、何ととっても豊かな自然です。そこかしこで四季折々の草花に出合い、季節を感じながら登山を楽しめます。運が良ければ、かわいいアナグマがひょっこり顔を出すことも。

さらに山頂の公園に到着すれば、有明海から阿蘇までを見渡す天空の大パノラマが広がります。

日帰りで存分に山の魅力を味わえる。それが飯田山をおすすめする理由です。



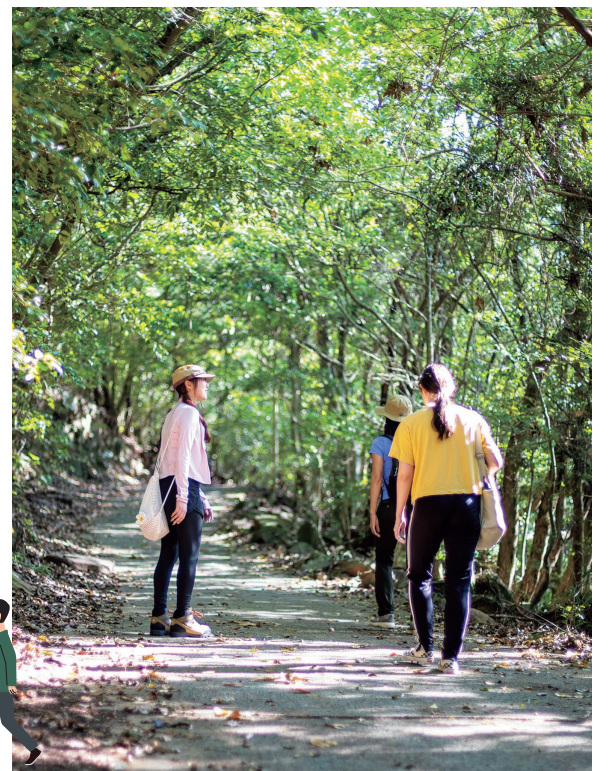
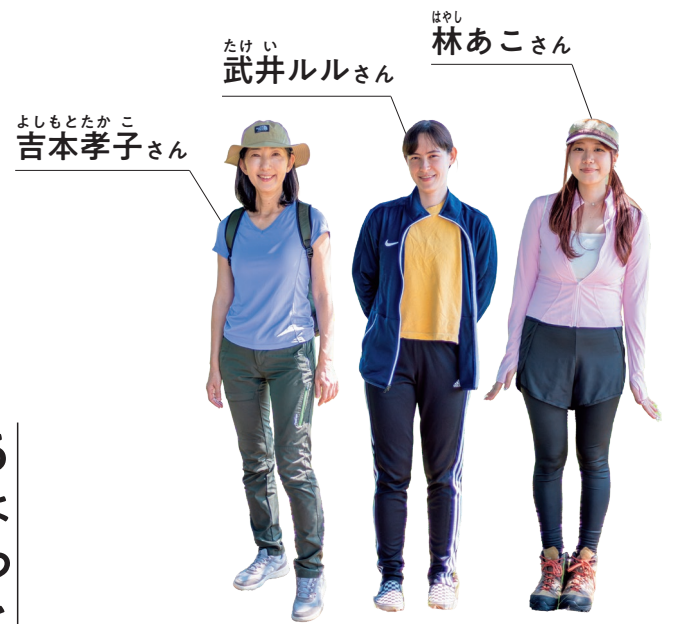
今回、山ガールをサポートしてくれた山登りの達人、シエルバの㊦一柳礼子さんと㊦飯塚京子さん



飯田山の魅力は、まずアクセスのしやすさ。国道443号を御船町方面に進み、飯野小の先に登山道入り口の看板が見えてきます。

駐車場は、登山道前と山頂に近い常楽寺前の2カ所。登る距離や目的に合わせて選べ、もちろん麓からゆっくり歩いて登るのもOKです。

標高は431㍍。山頂までの距離は約4.7㍍。地元有志の手で登山道がしっかり



飯田山に挑戦した
三人の山ガール♪